

県内経済の動き

概況

〔2024年1月～2024年3月の動き〕

引続き緩やかな回復が続く

鉱工業生産指数（1月）は23カ月連続で前年同月比低下、通関輸出額（2月 細島港）は2カ月連続で前年同月比増加した。百貨店・スーパー販売額（2月 全店ベース）は2カ月連続で前年同月比増加、「軽」を含む乗用車の販売台数（3月）は4カ月連続で前年同月比減少した。新設住宅着工戸数（2月）は4カ月ぶりに前年同月比減少し、公共工事（3月 保証対象請負総額）は9カ月連続で前年同月比増加した。有効求人倍率（2月）は前月比▲0.03の1.30倍で、3月の企業倒産は前月比1件増の5件、負債額は同9億77百万円減の1億81百万円となった。

物価上昇が継続し、賃上げの動きが広がるなか、3月にマイナス金利政策が解除された。金融環境の変化がもたらす県内経済への影響を注視したい。

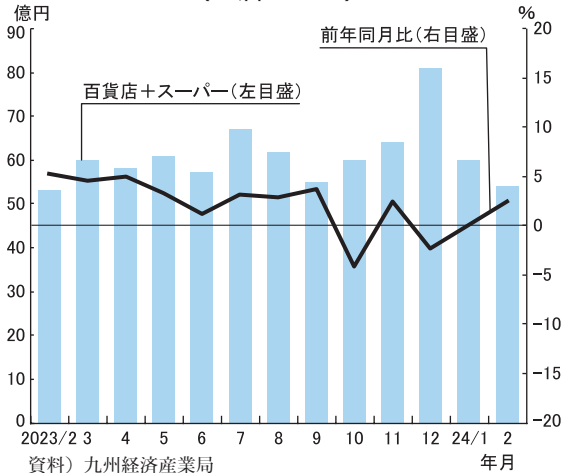
百貨店・スーパー販売

2カ月連続で前年同月比増加(2月)

九州経済産業局の調べによると(速報値)、2月の県内百貨店・スーパー(全店ベース)の総販売額は、54億36百万円(前年同月比+2.4%)と、2カ月連続で前年同月比増加した。

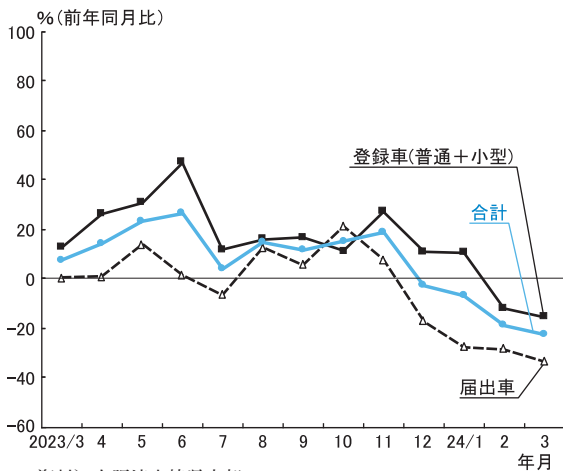
商品別にみると、「衣料品」は6億90百万円(同▲2.6%)、「飲食料品」は31億75百万円(同+2.7%)、「その他」は15億72百万円(同+4.3%)となった。

百貨店・スーパー販売額
(全店ベース)



資料)九州経済産業局
注)最新月は速報値。県内事業所数は百貨店1先、スーパー34先

乗用車の新車登録・届出台数



資料)自販連宮崎県支部

乗用車販売

4カ月連続で前年同月比減少(3月)

3月の新車登録(普通及び小型乗用車)と届出(軽乗用車)の合計は3,021台(前年同月比▲22.4%)と、4カ月連続で前年同月比減少した。

車種別では、普通乗用車(3ナンバー車)が1,481台(同▲5.8%)、小型乗用車(5ナンバー車)は526台(同▲33.9%)。軽乗用車は1,014台(同▲33.4%)となった。

住宅着工

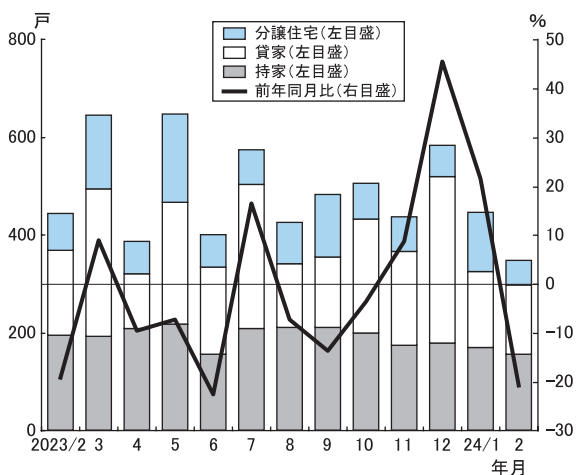
4カ月ぶりに前年同月比減少(2月)

2月の新設住宅着工戸数は353戸(前年同月比▲92戸、同▲20.7%)と、4カ月ぶりに前年同月比減少した。

用途別の内訳は、持家157戸(同▲19.1%)、貸家142戸(同▲18.4%)、分譲住宅50戸(同▲34.2%)。

持家は、延岡市が前年の12戸から21戸へ増加し、宮崎市は71戸から59戸、都城市が41戸から33戸へ減少した。

新設住宅着工戸数

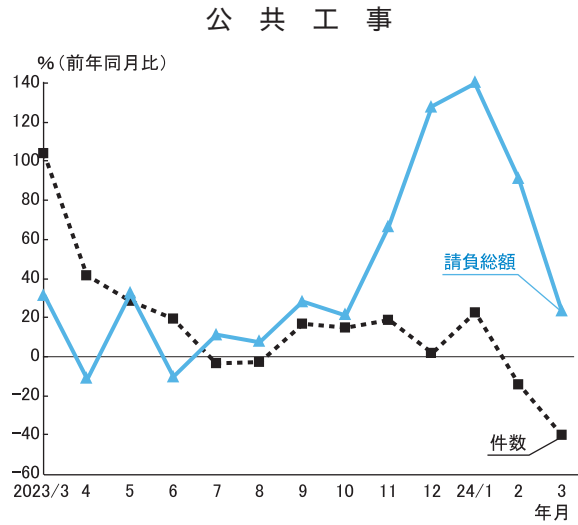


資料)県建築住宅課

公共工事

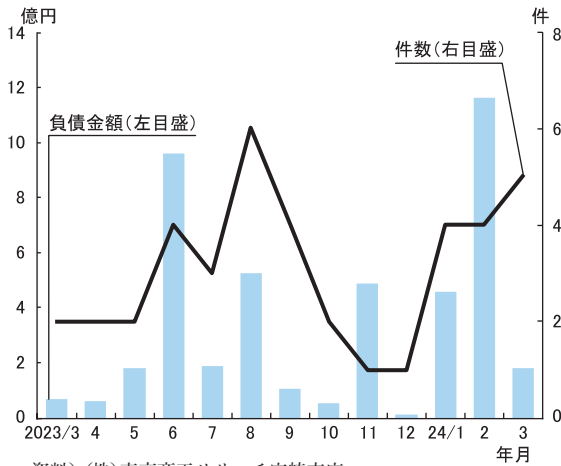
請負総額、9カ月連続で前年同月比増加(3月)

西日本建設業保証(株)宮崎支店の「公共工事動向」によると、3月の保証件数は404件(前年同月比▲39.6%)、保証対象請負総額は、約235億71百万円(同+23.4%)と9カ月連続で前年同月比増加した。主な発注者別にみると、「市町村」(125件)約26億円(同▲52.3%)、「県」(249件)約144億44百万円(同+54.4%)、「国」(26件)約62億7百万円(同+46.4%)となった。



資料) 西日本建設業保証(株)宮崎支店

企業倒産 (負債額1千万円以上)



資料) (株)東京商工リサーチ宮崎支店

企業倒産

負債総額は前月比大幅減少(3月)

東京商工リサーチ宮崎支店によると、3月の企業倒産件数は、前月比1件増の5件(前年同月比+3件)。負債総額は前月比9億77百万円減の1億81百万円。負債金額の最も高かった企業は、宮崎市の花き生産業で負債金額は81百万円であった。

業種別倒産件数は、サービス業、建設業が各2件、第一次産業が1件であった。

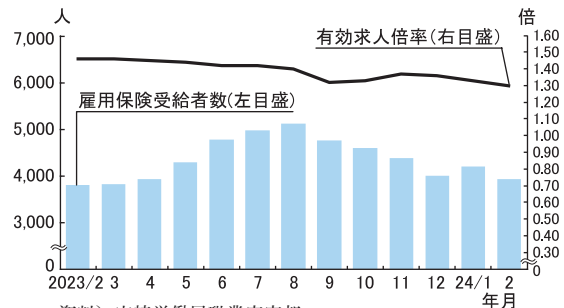
雇用動向

有効求人倍率は1.30倍(2月)

宮崎労働局によると、2月の新規求人数が10,034人(含むパート3,552人)と、前年同月比1.3%減少し、2月末時点の月間有効求人数は27,500人(新規学卒を除きパートを含む、前年同月比▲6.8%)、月間有効求職者数は21,084人(同+3.9%)。

この結果、月間有効求人倍率(季節調整値)は1.30倍(前月比▲0.03ポイント)。雇用保険受給者数は3,925人と、2カ月連続で前年同月比増加した。

月間有効求人倍率、雇用保険受給者数



資料) 宮崎労働局職業安定部

(参考) 2月の安定所別有効求人倍率

安定所	倍率	安定所	倍率
宮崎	1.37	日南	1.09
延岡	1.39	高鍋	1.21
日向	1.41	小林	1.54
都城	1.62	(季節調整前)	

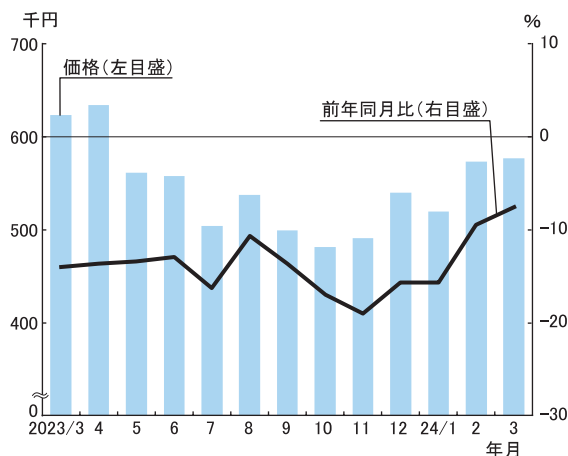
子牛市況（速報）

売却価格、30カ月連続で前年同月比マイナス（3月）

3月の黒毛和種子牛のせり市は、県内7カ所の家畜市場で、延べ16日間開催され、売却頭数は5,110頭、1頭当たりの平均売却価格は577,447円（前月比+0.7%、前年同月比▲7.5%）と、平均売却価格は30カ月連続で前年同月比マイナスとなった。

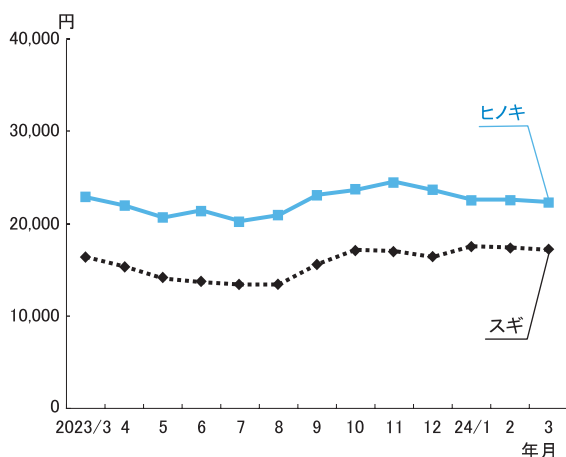
平均売却価格の最高値は、都城市場の602,826円だった。

肉用子牛（黒毛和牛）の売却総平均価格（速報）



資料）（公社）宮崎県畜産協会

木材市況（丸太）



資料）「木材価格（概算）」（農林水産省大臣官房統計部）

木材市況

スギの平均価格は前年同月比で上昇（3月）

3月の製材用素材（丸太）の平均価格（円/m³）は、スギ中丸太17,200円（前年同月比+4.9%）、ヒノキ中丸太22,300円（前年同月比▲2.6%）となった。県内の木材市場における中値（セリでの高値と安値の中間にあたる値）の分布は、スギ中丸太（長さ3m・4m/直径24~28cm）が15,000~17,000円、ヒノキ（長さ3m・4m/直径14~22cm）は10,800~23,100円だった。

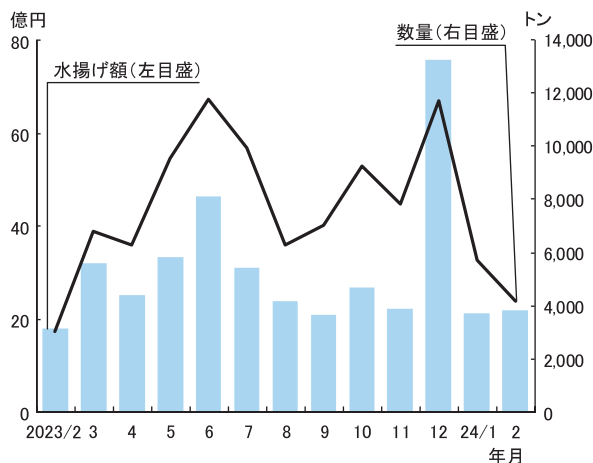
漁業

水揚げは前年同月比、数量・金額ともに増加（2月）

2月の県内18漁協の水揚げは、数量で4,184t（前年同月比+37.1%）、金額で22億7百万円（前年同月比+22.6%）と水揚げは数量・金額ともに前年同月比で増加した。

「かつお一本釣り」は、地元及び鹿児島港などを水揚げ基地とした好漁となった。「マグロはえ縄漁」は、キハダ主体の好漁で水揚げ数量は増加したものの、小型主体となったことから魚価安となった。「まき網漁」は、青アジ主体の漁で、水揚げ数量は増加したが魚価安のため金額は減少となった。

水揚げ額と数量（漁業）



資料）宮崎県漁業協同組合連合会